

令和元年度第1回石川県農林水産研究評価委員会 中間評価結果

日時：令和元年7月10日（水）13:30～15:30
場所：石川県庁行政庁舎1109会議室

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント	委員コメントに対する研究機関の回答・考え方等
1	農林総合研究センター農業試験場	県オリジナルナシ新品種「加賀しずく」の高品質安定生産技術の確立	H29～H33	ナシ新品種「加賀しずく」の品種特性に対応した品質向上技術および整枝・せん定技術を確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保存期間の延長により、消費者の冬期の果実の選択肢が広がることに期待する。 ○「加賀しずく」は、味はもとより大玉という特徴からも、お歳暮等の贈答需要が見込まれると思うので、長期貯蔵技術の開発に期待したい。 ○安定供給に向けては、より具体的な成果が求められる。 ○出荷量が増えるのか心配がある。研究予算が大きい分、成果が大きくなければならない。 ○実需者からは、とにかく出荷量の拡大（商品化率向上）が求められており、品質向上及び収量増加技術を早急に確立願いたい。 ○水温等で貯蔵期間を延ばす件は速やかに進めるべき。 ○糖度と収量との関係について定量的な検討を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水温等による長期貯蔵技術の確立を早期に図り、お歳暮等の贈答需要への対応や冬果物の品目数の増加に貢献したい。 ○糖度と収量との関係について定量的な検討を行い、糖度基準未達となる果実量を最小にして出荷量を最大とする技術の普及を図りたい。樹が順調に生育しており、本技術の導入で出荷量は年々増加すると考えている。 ○日本なしは品種毎に整枝せん定方法が異なるため、品種特性を踏まえて出荷量が増加する栽培技術の開発を早期に進めたい。